

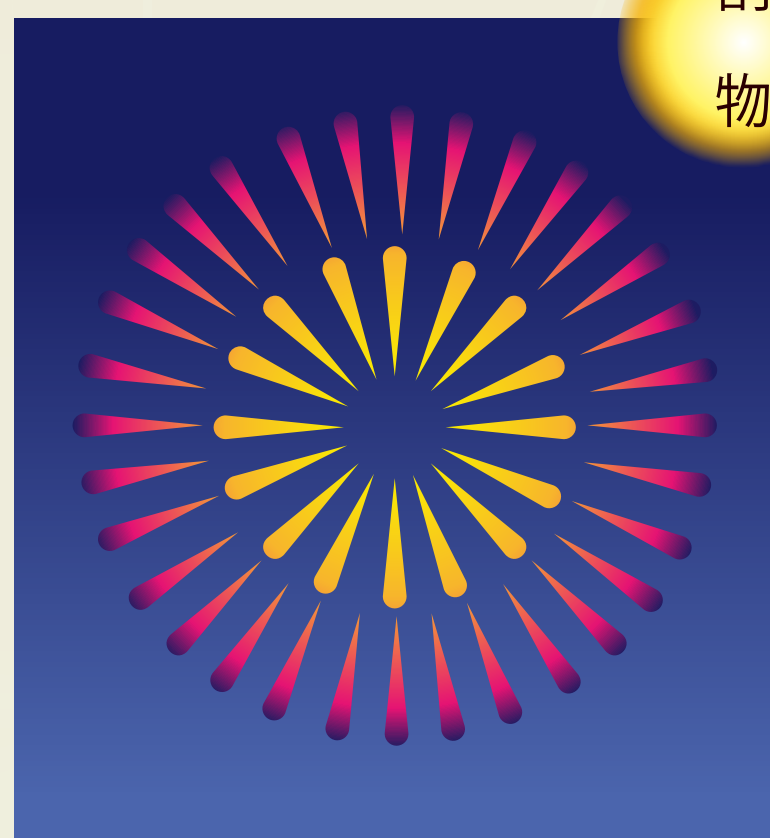
知っておくと
「より」
楽しめる！

花火の “基礎知識”

01 菊（きく）

日本の伝統的な花火の基本形。

爆発すると火の粉の尾（引き火）を引きながら球状に広がります。引き火の色は、橙から紅、紅から青のように変化しながら開いていくものがあります。



割
物

02 椰子（やし）

ほかの火花に比べ、太い光を発する「椰子」。

幹を描きながら夜空に昇り、まるで椰子の木のような形となる花火です。



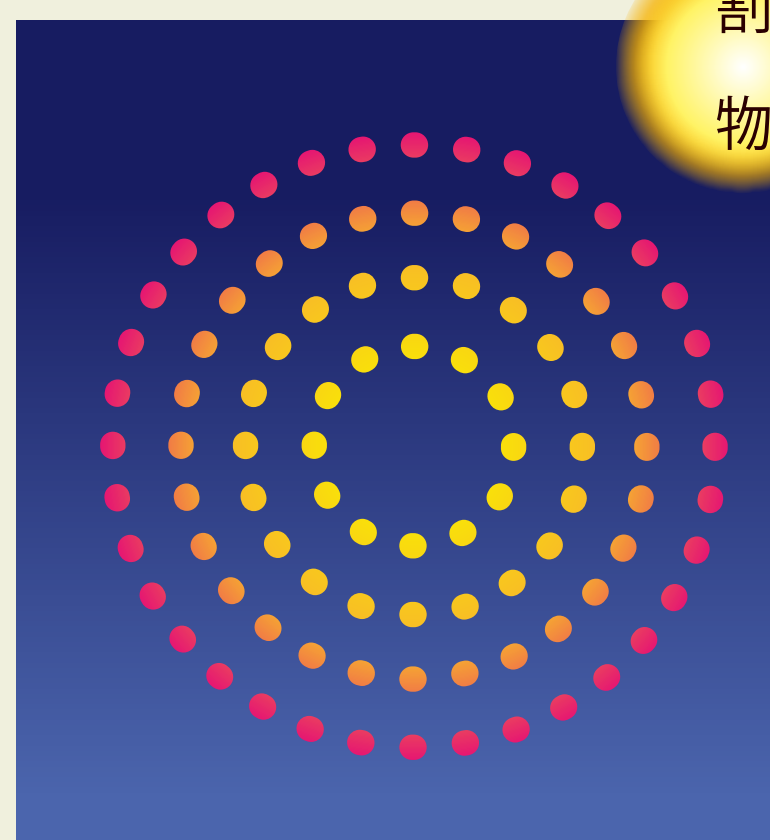
割
物

03 牡丹（ぼたん）

「菊」と同様に球状の花火ですが、「菊」との違いは引き火を引かないことです。

爆発すると、パッと光り、消えていきます。

花火の中のひと回り小さな円（芯）が入ることも。



割
物

04 千輪（せんりん）

花火玉が上空で割れた時に、中に詰めたいくつもの小玉が一瞬遅れて一斉に開く花火です。

様々な色の菊型の小玉を使うと「千輪菊」になります。

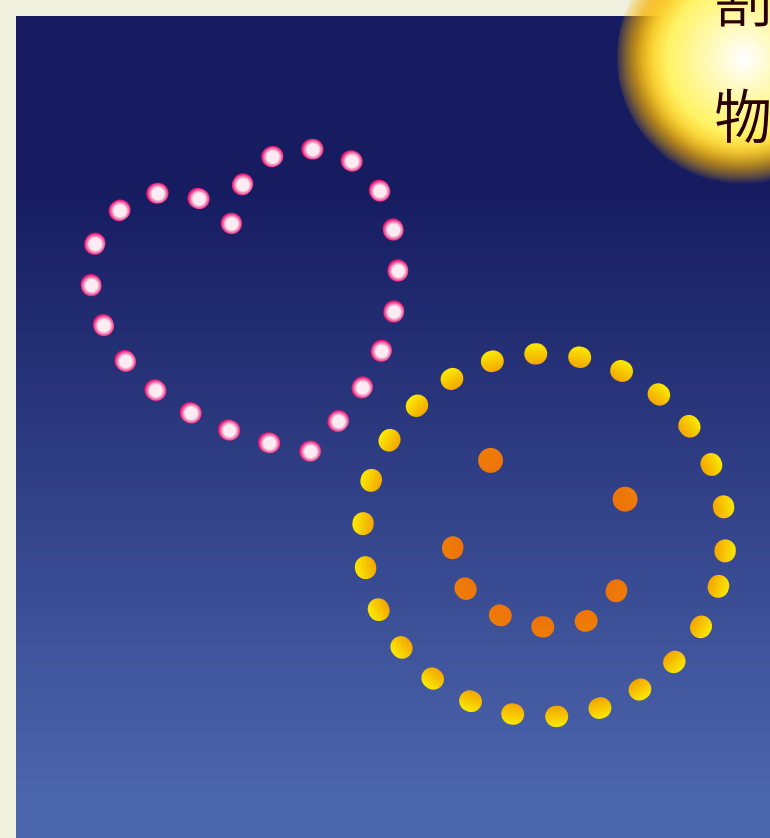


小
割
物

05 型物（かたもの）

スマイルやハート、人気キャラクターを模したものなど、その種類は豊富です。

平面に広がる花火のため、爆発するタイミングや、見る角度によって見え方は異なります。



割
物

06 柳（やなぎ）

花火玉が割れると上空から柳の枝が垂れ下がるように光が落ちてくる花火です。

最近は彩色柳など様々な色の柳があり、落ちてくる時に色が変わるものもあります。

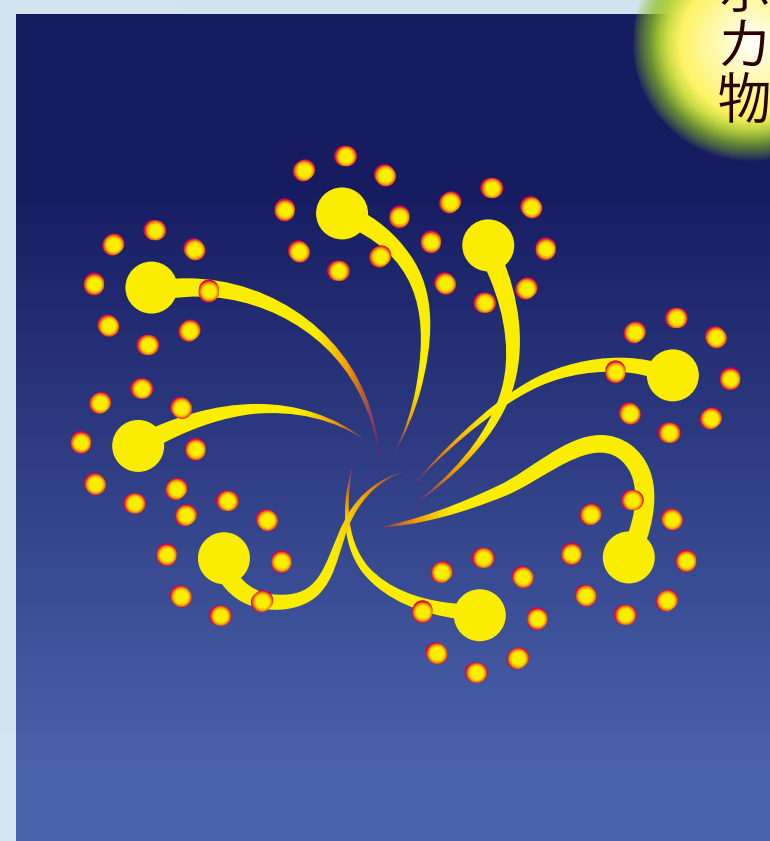


ポ
カ
物

07 蜂（はち）

ポカ物花火のひとつ「蜂」。

花火玉が割れると、四方八方にシュルシュルと不規則に飛び回るユニークな花火です。



ポ
カ
物

08 水中花火

鎌倉花火大会の名物花火のひとつ。

水面上で花火玉が開くため、扇状に花火が広がります。

